

平成28年度 第1回総合教育会議次第

日時 平成29年2月24日(金)
午後3時から
場所 本庁舎401会議室

1 開会

2 挨拶

3 議題

(1) 家庭教育の推進について

資料1 平成28年度学力・学習状況調査結果について

資料2 家庭教育リーフレット「あったか家族3つのポイント！」

資料3 リーフレットに対する感想・意見(小・中学校PTA)

(2) その他

4 閉会

平成28年度全国学力・学習状況調査結果について(抜粋)

I 調査の目的

- 国が、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 市教育委員会が、全国的な学力や学習状況との関係において、本市小中学校の結果を把握し、改善を図るための教育施策に活用する。
- 小中学校においては、各校の児童生徒の学力や学習状況を把握し、教育指導や学習状況の改善等に活用する。

II 実施概況(射水市小中学校)

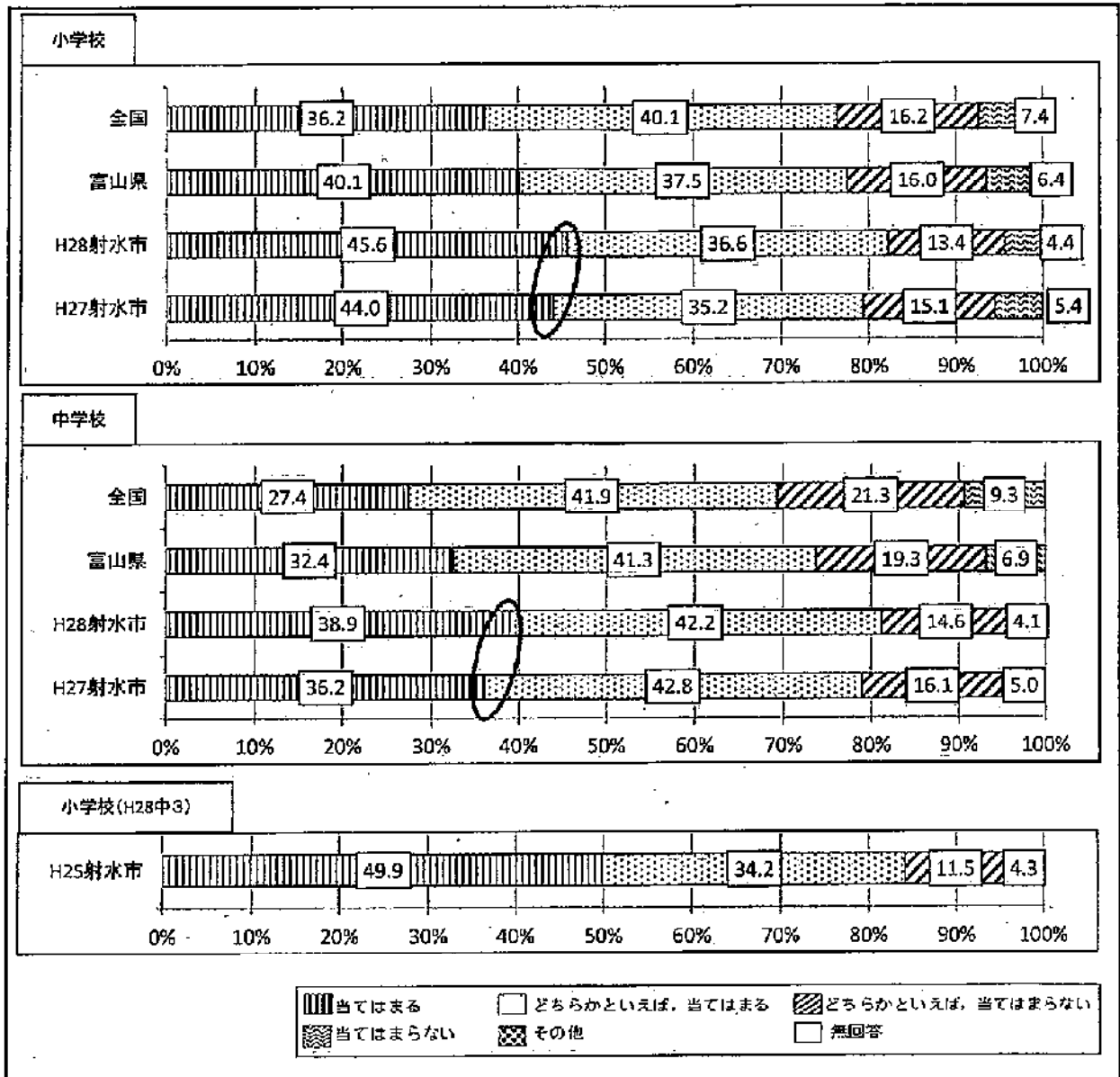
- 実施期日 平成28年4月19日(火)
- 調査内容
 - ・学力調査(教科に関する調査)
 - (小学校)国語、算数
 - (中学校)国語、数学
 - ・学習調査(質問紙調査)
 - 児童生徒、学校
- 実施学校数、実施児童生徒数

| 小学校6年 | | 中学校3年 | |
|-------|-------|-------|-------|
| 実施学校数 | 実施児童数 | 実施学校数 | 実施生徒数 |
| 15校 | 856名 | 6校 | 917名 |

3 「学習状況調査」の結果 <抜粋>

児童生徒質問紙1 (6)【自尊感情】

Q 自分には、よいところがあると思いますか。



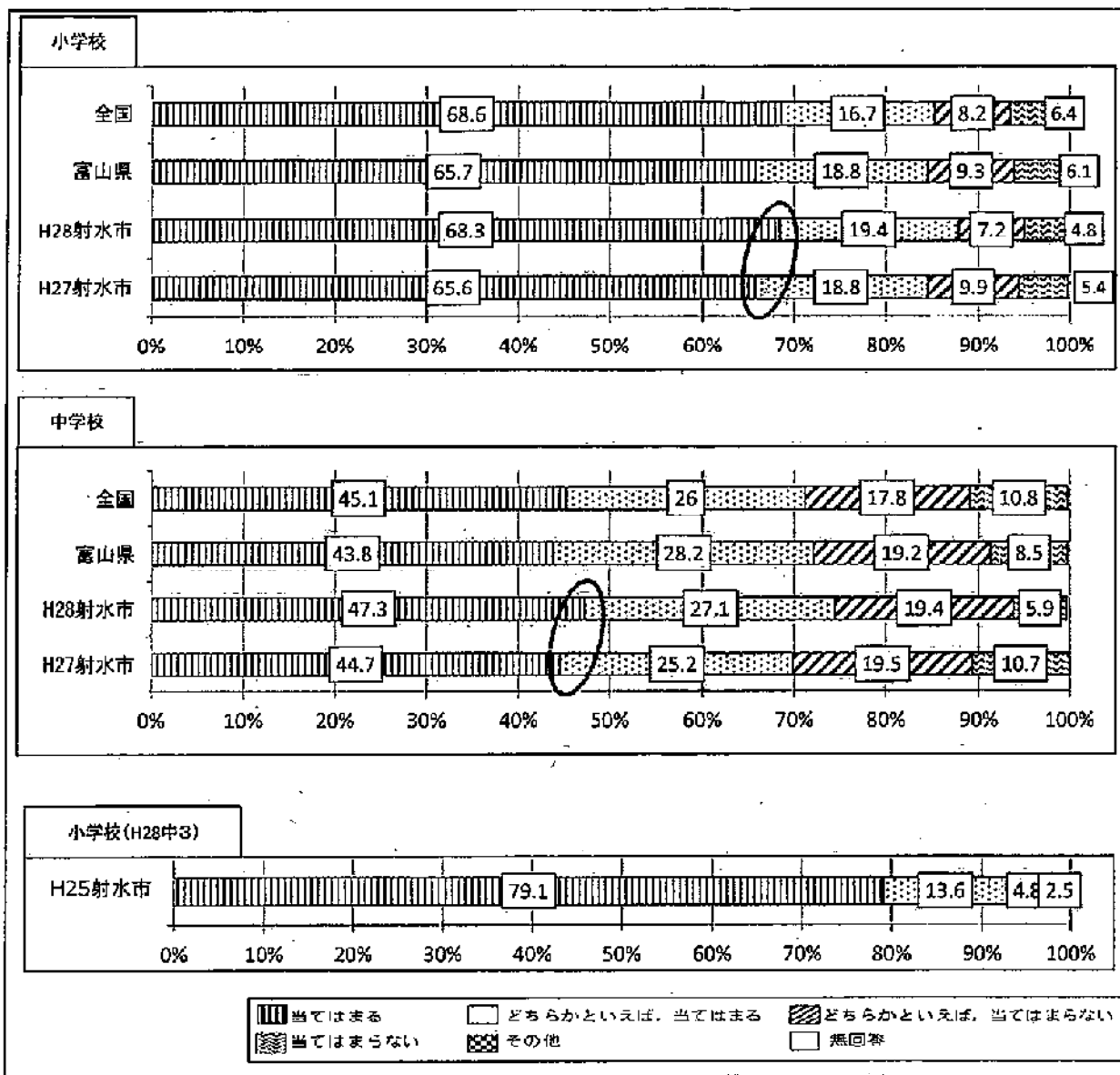
【考察】

小学校は、「当てはまる」が昨年度より1.6ポイント上昇、中学校も「当てはまる」が2.7ポイント上昇している。小中学校ともに全国平均を約10ポイント、県平均を約5ポイント上回り、自尊感情を高め、自分に自信を持つ児童生徒が増加している。ただし、今年度中学生の小学校時の「当てはまる」と比較すると、10ポイント低下している。

市全体で「自己有用感」「共感的な人間関係」「自己決定」の充実を図り、自尊感情を育てる取組を推進している成果が概ね表れていると考えられる。今後さらに、今年度の「豊かな人間関係づくり支援事業」の成果を共有し、継続的取組を推進していくことが大切である。

児童生徒質問紙2 (9)【夢・目標】

Q 将来の夢や目標を持っていますか。



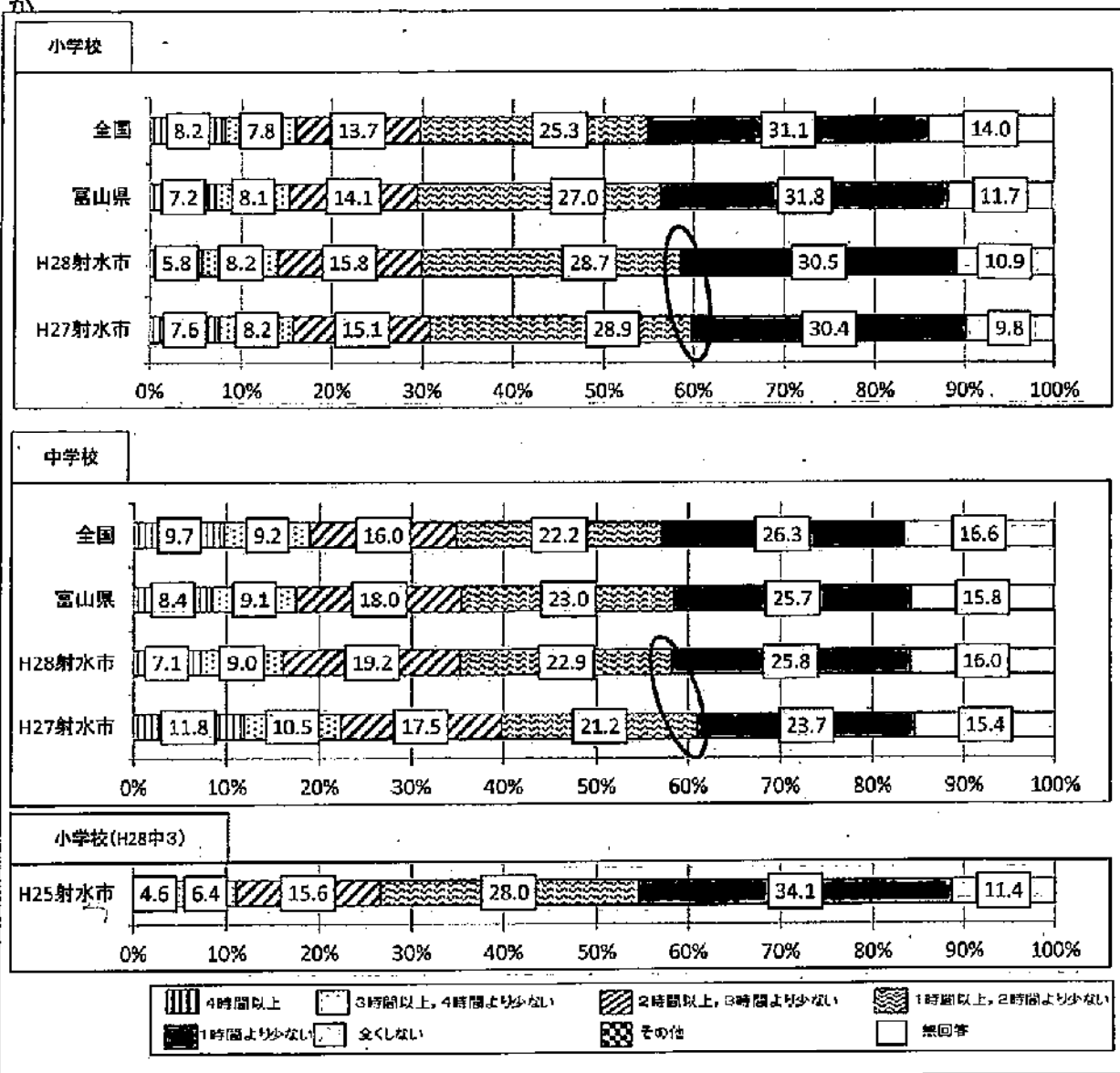
【考察】

昨年度より「当てはまる」が小学校で2.7ポイント、中学校で2.6ポイント上回っている。小中学校ともに昨年度は、全国平均を下回っていたので、今年度は、自分自身の将来を考える児童生徒が増え、自尊感情が高まってきたことが分かる。ただし、今年度中学生の小学校時の「当てはまる」が非常に高い値であったことを考慮する必要がある。

小中学校共に各教科の時間だけでなく、道徳の時間や特別活動の充実に取り組んでいる成果が表れていると考えられる。日々の学習活動において、より具体的な目標意識を持つことやそれを達成しようとする意欲を向上させる働きかけを継続して行っていきたい。

児童生徒質問紙3 (12)【生活習慣】

Q 普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。



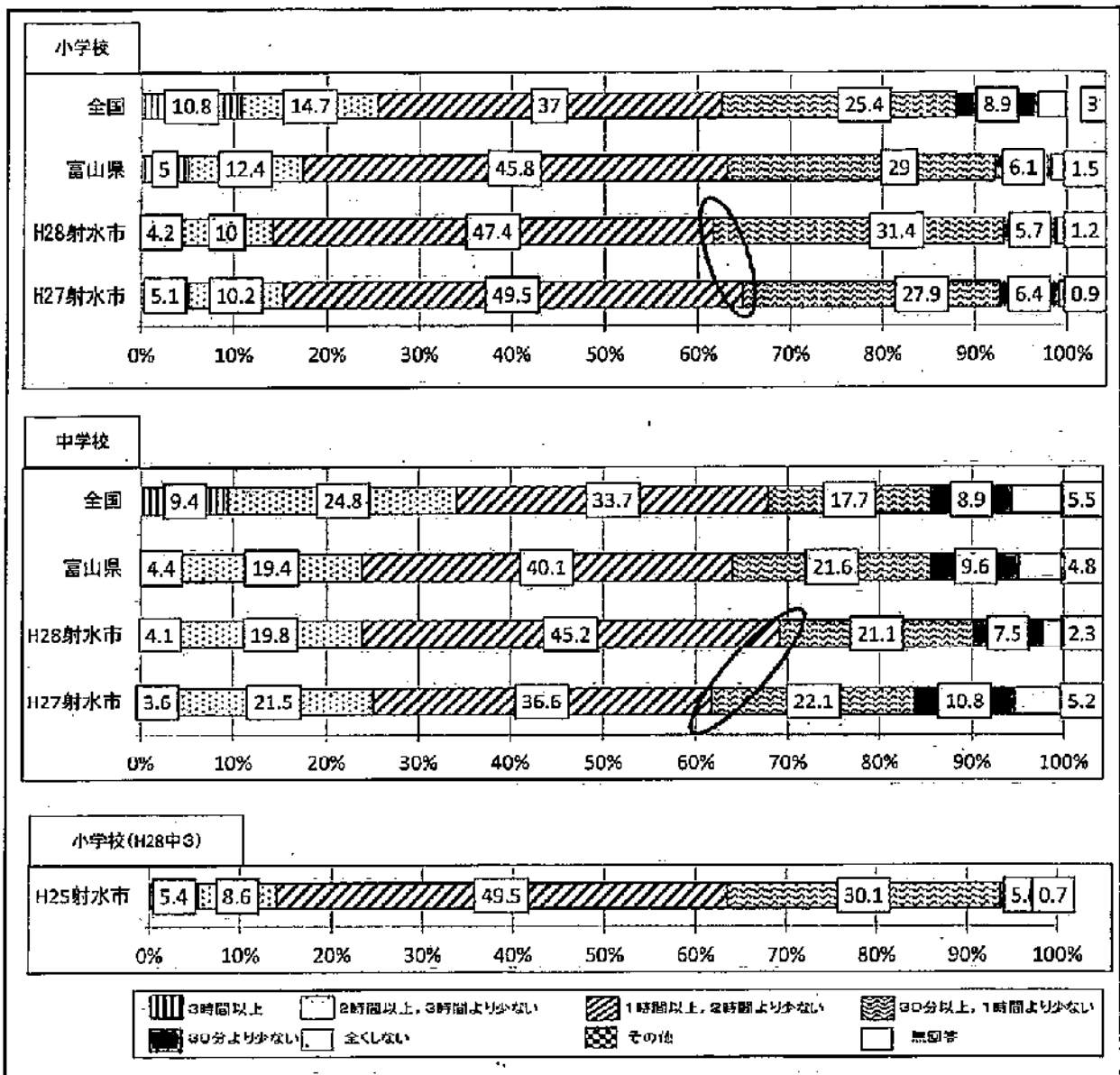
【考察】

小中学校ともに「1時間より少ない」や「全くしない」の割合が昨年度より増え、長時間ゲームをする児童生徒の割合は減少している。中学校は、「4時間以上」の割合が昨年より減少しているが、全国と比較すると、小中学校ともに、ゲームにかかる時間が長いことが分かる。

オンラインゲームが普及している中でゲーム依存や課金のトラブル等が起こりうる可能性がある。ゲーム利用についての家庭でのルールづくりや学校での指導等、児童生徒が自分で判断していけるように支援していく必要がある。

児童生徒質問紙 4 (14)【家庭学習】

Q 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）。



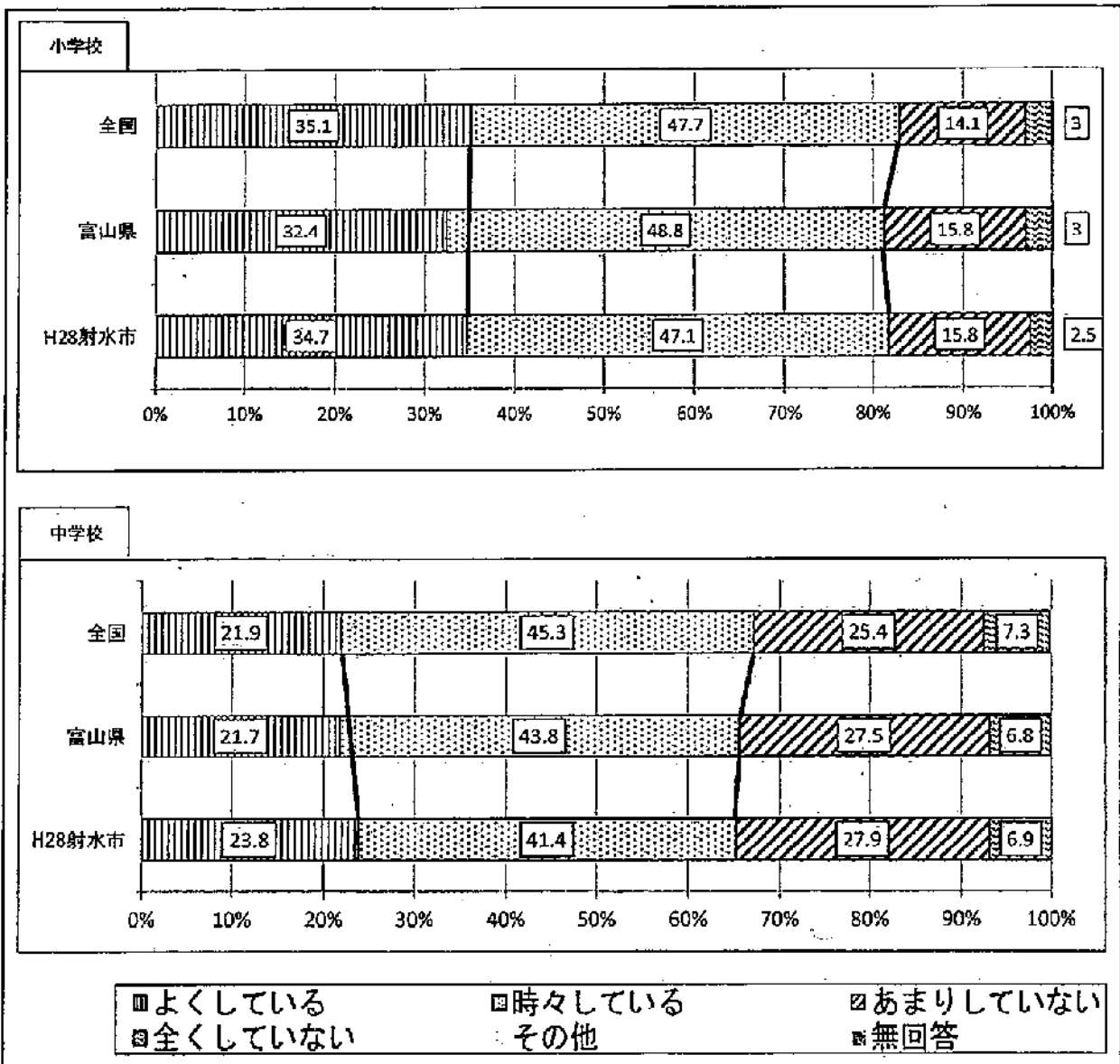
【考察】

小学校は、「1～2時間家庭学習をしている」が、昨年度より2.1ポイント減少し、「30分～1時間家庭学習している」が3.5ポイント増加して家庭学習の時間が短くなっている。中学校は、「1～2時間家庭学習をしている」が8.6ポイント増加し、家庭学習が着実に定着している。今年度中学生は、小学校時と比較し「1時間以上家庭学習をしている」割合が、6.1ポイント増加している。

小学校では「家庭学習ノート」を用いる際に、家庭と連携を取りながら、学習内容やノートのよりよいまとめ方等のガイダンスをしっかりと行い、家庭学習ノートを用いた学習に自分なりの目当てを持って継続して取り組んでいくことができるように指導することが大切であると考えられる。また、小中学校ともに、家庭学習のよい取組を賞賛したり校内で広めたりするなどの手立ても家庭学習の意欲の向上につながると考えられる。

【児童生徒質問紙6 (20)【手伝い】

Q 家の手伝いをしていますか。



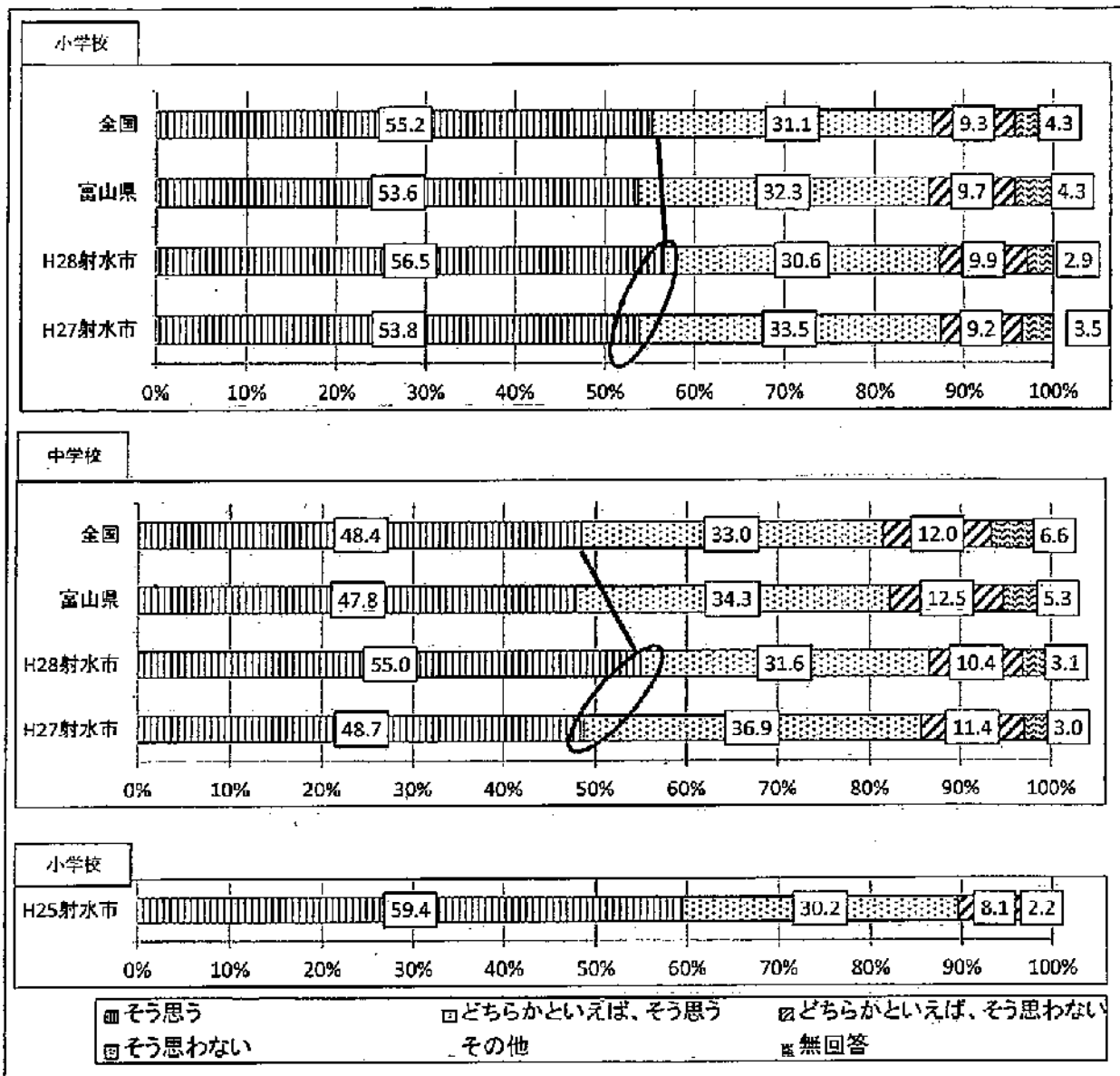
【考察】

小学校は、「よくしている」が全国平均を0.4ポイント下回り、中学校は、「よくしている」が全国平均を1.9ポイント上回っている。「時々している」を含めると小中学校ともほぼ全国、県と同じ傾向を示していると言える。

今後は、「あったか家族3つのポイント」の普及など家庭と連携する取組を生かして、家庭での役割や自分にできることを考えて実行することができる児童生徒の育成を図る必要があると思われる。また、そのことが、目標を持って様々なことに取り組む実行力の向上にもつながると考えられる。

児童生徒質問紙7 (26)【楽しい学校】

Q 学校に行くのは楽しいと思いますか。



【考察】

小学校は、「そう思う」が全国平均を1.3ポイント上回り、中学校も「当てはまる」が全国平均を6.6ポイント上回っている。特に中学校では、昨年度より6.3ポイント上昇した。ただし、今年度中学生の小学校時の「そう思う」割合も非常に高い値であった。

概ね学校に自分の居場所がある児童生徒の割合が高くなっていることが分かる。自尊感情を育てる取組の成果が表れ、その影響で「そう思う」と答えた生徒が増加したと考えられる。また、友人関係が良好であることや授業の前向きに取り組んでいることも考えられる。今後も落ち着いて学校生活を送られ、児童生徒が「学校が楽しい」と答えられるような実践を各学校で行っていくことが重要である。

「家庭教育リーフレット」に対する感想・意見（小・中学校PTA）

〔肯定的な意見〕

- ・カラーでイラストも多く読みやすい。
- ・取組の内容としては基礎的なものだが、夏休み中、我が家での振り返りに有効であった。
- ・共働きや様々な家庭環境も手伝ってか、私生活が乱れがちな傾向があるのではないかと児童の服装や言葉遣いに触れる中で感じている。地域特性もあり、何ともしがたい面もあるが、1家庭単位で取り組めることの全ては、やはり「個々の気付き」でしかないように思うので、リーフレットの配布は適当なのではないかと思う。
- ・無理矢理お手伝いしろと言ってもなかなかしてくれなかったが、褒めたり励ましたりすることにより、少しずつだが手伝ってくれるようになった。達成感が出たのだと思う。
- ・家庭での役割を決めたら、嫌々ながらやってくれるようになった。やっている本人は使命感・責任感を感じてくれたのだと思う。
- ・大人が規則正しい食生活を贈ることで、子供も自然と規則正しい食生活習慣を覚えていくので、大人が模範となることは大変重要である。
- ・子供とたくさん話し、認め、責任感を持たせることで自己肯定感を作り出すことができるため、リーフレットのような取組は大変重要だと思う。
- ・コミュニケーションと学力は関係していることが分かった。
- ・リーフレットを読んでみて、改めてその内容に共感できた。今後も心がけて実行していきたい。
- ・子供とのコミュニケーションが大切だと分かっているにもかかわらず思うようにできなかったり、忙しきで気に掛けられないときに、これを見てふと思い出したり、改めて気を付けよう意識するよいきっかけになると思う。
- ・リーフレットを見て、改めて子供達とのコミュニケーションを取るきっかけになった。また、定期的に発信してもらえればと思う。
- ・学校側でも夏休みの際に自宅でのお手伝いの項目があるが、継続的なものにしていきたいと感じたので参考になった。
- ・今までは家族全員揃って食事をすることに深く考えることがなかった。我が家庭をよく観察してみると、当たり前なのがなかなか各々の都合でできていないことに気が付いた。
- ・改めてリーフレットに目を通し、「家族揃って食事をする＝家族のコミュニケーションを高めることに繋がる」ことに共感することができた。また、このことで子供の成績アップに貢献できるのであれば心がけたいと思った。
- ・普段当たり前に行っていることをリーフレットを見て、いかに大切か再確認できた。
- ・実際に子供に関心を寄せ変化は声に出したり、話を聞く時間を作ったりしていると、自分からいろいろな話をしてくるようになった。忙しい中にも関心を寄せ、大切な

存在を感じられるように、今後とも子供と関わっていきたい。

- ・積極的に子供と会話することを心がけるようになった。子供が表情豊かに話を返してくれるようになった。
- ・忙しいときでも顔を見て話を聞くことが大事だと分かった。会話することで子供が安心でき、それが学力にも繋がるデータがあることを初めて知った。
- ・主な効果が具体的に明記されており分かりやすい。
- ・「おしゃべり・食事・お手伝い」という観点がいい。(昔は、早寝早起き・朝ご飯だった?)

〔 否定的な意見 〕

- ・内容が理想的すぎて実践しにくい。
- ・あったか家族の3つのポイントの効果は十分に理解できるし家族のコミュニケーションが重要なのも分かる。けれども「理想」であって、どの家庭も親の都合上、なかなか会話できる時間がとれないのではないか。
- ・「あいさつ、食事、おしゃべり、お手伝い」が大切なことは、どの親も分かっている。しかし、基本的に親は忙しく、その多忙な親にこのリーフレットは、子供のためにこれら全てを实践しましょうと親に更なる負担を強いているようにも感じる。
- ・さっと目を通して終わりという親も多いと思う。
- ・裏面の生活習慣やコミュニケーションと学力の関係グラフが少し分かりにくい。
- ・子供とコミュニケーションを取りたくても仕事が忙しい、生活が苦しく子供に目を向ける余裕がないなどの各家庭の事情もあり、このグラフはコミュニケーションを取らない親を非難しているようにも受け取れる。
- ・子供の話をよく聞いている親は、子供に勉強するように働きかけているのは当然でこの調査は調査するまでもない当たり前の結果だと思う。
- ・表紙の愛着障害等の文言にやや威圧感を感じ、気重で自然な取組ができなかった。
- ・学期末の大量な配り物の1部としての認識しか無く、そのものの存在を忘れていた。
- ・夏休み前の配布物に入っていたため、会員に聞いたときに知っていた人は少なかった。

〔 改善点 〕

- ・このリーフレットの作成に子育て世代の親が積極的に携わった方がよい。
- ・全てのことはできなくてもOKで、できることから少しずつやってみましょうというニュアンスのもう少し優しい紙面作りが必要。
- ・食事は非常に大事だと思う。多忙でも簡単にできる栄養価の高いメニューを紹介するとか、ちょっとこれなら自分にでもできるかもしれないと感じられる具体例等が書いてあると有難い。
- ・リーフレットを作成するときは、先ず仕事や家事で忙しい親を労うような形で入り、少しでも忙しく余裕がない親の子育てのヒント・助けとなる情報の掲載を望む。
- ・食事はなるべく子供と一緒に食べるようにしているが、仕事が忙しく家族団らん機

会を取ることができない家庭がある。少ない時間の中で子供と効果的なコミュニケーションを取る方法を教えてほしい。

- ・予算の使い方として「記憶に残る」物や機会を提供することが重要ではないか。例えば細かい啓発予算を統合して「催し予算」にて使途するとよいのではないか。

- ① 時事に適した著名人を配置した催しを企画
- ② 催しを広く周知・集客して、メディア露出等も効果的に。
- ③ 出席者はもちろん、出席できなかった人にも広く長く記憶に留まる一助になるのではないか。

・保護者側だけの空回りにならぬよう、子供向けにも一緒に楽しく読めるようなリーフレットがあればよい。

- ・リーフレットの内容や文面は保護者向けだが、子供が自主的に変わることが一番なので、子供に対して読みやすいリーフレットがよいと思う。

- ・リーフレットを配るだけでは、関心のない保護者は目を通していないと思う。配布方法も工夫してほしい。

- ・たくさんの配布物の中に入っていると、よく見ることなくスルーされる可能性が高いので、配布するタイミングも考えたらいいと思う。

- ・学校でリーフレットが配布されていると思うが、正直、配布されていることに気が付かなかつた。例えば、リーフレットに関するアンケートを学校に提出するようにし向けていただければ、配布する側も配布される側もリーフレットについて関心を持つことができたのではないか。

- ・定期的な啓蒙活動が必要だと思う。一度だけでは紙が流れるだけになると思う。

- ・「子供が望むのは～居場所です。」(見開きページ下)をもっと大きくPRした方がいいと思う。

- ・学力、学習状況のグラフは興味深いが見出しがはっきりせず、せつかくの内容が埋もれていてもったいないと感じた。

[その他の感想]

- ・家の中であいさつをしてもなかなか返してくれない。注意すると「うざい」と言われるばかり。しかし、地域の方や先生方にはあいさつをしているとのことですが、親っていったい何？このようなとき、親はあいさつのことに対して何も言うべきではないのか。

- ・リーフレットは素晴らしい取組ということは理解しているが、実際に行おうとしても大人の都合もしくは子供の都合により、困難なことが多かった。しかし子供のためなので、親自身が努力して実行していかなければならないと思った。

・最初は意気込んでやるものの、段々といい加減になり、結局最初だけのパターンが多く見られた。継続して行うためには、やっぱり毎日のように心がけるということ
を家族全員で確認等が必要かと思った。

- ・平日はどうしても父親の帰りが遅くなるので、その分休日にはできるだけ家族一緒の時間を大切にしたいと思う。

- ・ご近所や同級生同士など複数の家族間でも交流するような機会をどんどん作っていききたい。
- ・忙しさにかまけて「言わなくても分かるだろう」などと思わず、子供の目線に降りて気持ちを考えるようにしたい。
- ・「うちの子は大丈夫！」などと安易に思わず、些細な言動の変化を見逃さないようにしたい。
- ・家庭内だけでなく、もちろん学校の教育現場でも先生方からより一層の働きかけとご指導をお願いしたい。
- ・先日、たまたま家族全員で朝食を取ることができた。家族みんなの一日のスケジュール等、いろいろな会話をしながら気持ちのいい1日を切ることができた。そんなとき、ふと「家庭教育リーフレット」のことを思い出すことができた。これからもできる限り家族全員で食事ができるように気配りしたいと思った。
- ・ゲームやインターネット等で夜更かし → 朝起きられない → 朝食食わずに登校 → 授業に身が入らない 「負」の連鎖にならないよう親も生活習慣に関する働きかけをするべきだと思う。
- ・中学生になると思春期や反抗期からか会話が少なくなるし、家の手伝いも学習や部活動で忙しく、ほとんどしない。